

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470103807
法人名	医療法人 博光会
事業所名	グループホームつかがわ
訪問調査日	平成20年 8月 6日
評価確定日	平成20年10月 2日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4470103807
法人名	医療法人 博光会
事業所名	グループホームつかがわ
所在地	大分市東春日町5-25 (電話) 097-548-5122

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年 8月 6日	評価確定日	平成20年10月 2日

【情報提供票より】(平成20年7月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 5 階建ての 2階 ~ 3階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	1,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
または1日当たり 1,200円				

(4) 利用者の概要(平成20年7月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	8 名		
要介護5	6 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	塚川第一病院 矢野眼科 高橋歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 緑に囲まれた公園横にある建物の2階、3階部分がグループホームになっており、窓から街の様子、海、神社、車の往来が見え、利便性に優れている。
- 2 管理者は人材育成に意欲的で年間研修計画をたて、段階的、計画的な研修の機会を確保すると共に新採用時には、必ず認知症の研修を受講してから利用者に関わるようにしている。
- 3 利用者が、残りの人生を1番楽しい日々と感じるように全職員で理念に基づいた地域に根ざした温もりのあるケアを実践している。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は全体会議で報告し評価を1年間の見直しの機会ととらえ、改善計画をたて改善している。運営推進会議でも報告し検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的を理解して全職員で自己評価に取り組んだことでケア、サービスの振り返りや見直しができ改善につながった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回行われ、13名の出席者には利用者の状況説明を行い、参加者からは活発な意見をもらっている。また、欠席の場合は議事録を送り委員よりもらった意見は業務に取り入れサービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に日常の様子を撮ったアルバムを見てもらったり、年4回発行する新聞の送付や、月1回担当者のコメントを入れた日常の暮らしぶりの報告をしている。また、年1回アンケート調査や家族会議のとき、家族だけで話し合う時間を設けるなど意見や苦情を引き出す取り組みを行い出された意見は全体会議で話し合いや運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭や行事には必ず参加するようにしたり、グループホーム横の公園清掃は全面的に引き受け、散歩の時は空き缶やごみ拾いを日課としている。また、近くの保育園とは1ヶ月に1度は交流を行い定期的に地域と交流する事に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「目で見えて」「耳で聴いて」「手をさしのべて」の理念から外に目を向け地域、社会の中に自分たちが居る幸せを体、心で感じるグループホーム独自の理念に全職員で話し合って作り変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会議や日々のミーティングで理念の意義を話し合いボランティアや実習生にも理念に基づいたケアを実践していると伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや行事に必ず案内があり参加している。グループホームの近くにある公園清掃は全面的に引き受け、散歩をする時は空き缶やごみ拾いを日課としている。また、保育園とは1ヶ月に1回の交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義は全体会議の中で説明しミーティング等でも話している。また、運営推進会議でも報告し1年間の見直しの機会とし、評価を活かした取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開き、利用者の状況説明等を行い、出席者より活発な意見をもらっている。また欠席委員には議事録を送り、委員よりもらった意見は業務に取り入れ、サービス向上に活かしている。議長は民生委員児童委員で13名の出席がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の依頼による大学生や社会福祉関係者の見学受け入れや、市の研修には必ず参加し、職員と共にサービスの質の向上に努めている。市との相談業務や連携はできている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	新聞を年4回発行し担当者が一筆書き家族に送付する。面会に来る家族には日常生活を撮ったアルバムを見てもらい金銭報告は1ヶ月に1回行い認印をもらっている。また身体に異常があれば報告をし常に家族とは情報を共有するように心がけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時はゆっくり話ができる雰囲気作りをし、意見や苦情を聞いている。また年1回のアンケート調査や玄関先に意見箱を設置し、意見が出やすい配慮をしている。要望、苦情は全体会議で話し合い結果の報告もしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護職員48名は部署異動があっても対応ができるよう常にコミュニケーションを図っており、異動も最小限に行っているため、利用者への影響は少ない。又、家族にも毎月の手紙送付時に報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成が第一との認識で計画的な研修メニューを作り個人レベルにあった研修参加を行い、研修内容の共有のため、現場にフィードバックする方式で公開講座にも公休利用で参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分県連絡会に加入し、勉強会やバレーボール大会に参加して交流を深めている。また、他施設との交換実習を行いグループホームの全職員が参加し結果をサービスの質の向上に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症デイサービス、小規模多機能を利用しながら慣れてからの入所である。急な入所の場合は家族と十分に話し合いをして馴染めるまで協力もあり、ケースバイケースで対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「手伝って」ではなく「教えてね」との言葉かけで、おやつ作り、昔の話、生活の知恵等を聞き、感謝の気持ちを伝え共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの中から利用者の生活歴を把握し、楽しみ、思いや意向を大切にケアを行うように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症の人のためのマネジメントセンター方式を取り入れ家族、利用者、職員の思いを大切にプランである。担当者が利用者、家族から聞き取りの後、提出し、家族が記入する項目もある。介護計画の作成には全職員が関わっておりページを開くと誰が見ても分かりやすい介護計画書である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月ごとにモニタリングをして、3ヶ月に1度介護計画の見直しを行っている。変化があった場合は、利用者、家族、ケアマネージャーとカンファレンスを行い随時プランの作成を行い現状に即した計画となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	高齢者家族(老老介護)の場合、専門医への通院介助、帰宅支援、個々の利用者が希望する外食支援、お墓参りの介助等要望に応じて柔軟なサービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の家族の思いを大切にして、希望する医療機関への受診を継続している。また健康維持のため、2週間に1度の定期健診を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に利用者、家族の意向を確認し、同意書をもらい方針の共有はできている。終末期になった場合、納得のいくまで話し合い再度、同意書をもらい医療処置は病院やグループホームで行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法は全職員で学び、周知徹底するようにしている。実習生や見学者にも対応マニュアルを作成し細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内で大まかな日程はあるが、利用者の気分、体調により利用者を主体とした考えでのケアを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主菜は厨房から運び他はホーム内で作っている。週1回(日曜日)は利用者の希望を取り入れ、季節のものを使った食事作りを利用者と共に行い、職員も同じテーブルを囲んで利用者と同じ食事を食べている。また、おやつ作りもできる人が職員と楽しく作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間は決まっているが利用者の希望にあわせ、入りたい時間に入浴し、一人ひとりのスタッフが全てに関わるプリコラージュ方式ではあるが、仲の良い人同士で入る場合もある。浮腫のひどい人、血行の悪い人は毎日足浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を大事にした対応をしているので洗濯物たたみ、調理の手伝い、あと片付け等、自分の仕事と思っている利用者もいて、声かけにより自ら進んで行動し生活に張りができるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日に1度は必ず戸外に出かけ気分転換をし、散歩コースは決めている。散歩のとき商店街の人による声かけ、老人会の人のお誘いもあり、竹町、神社、公園と、コースには恵まれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていないが、出かけようとするれば鈴が鳴るようになっており、気になる音量ではない。職員は目を離さないケアに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議を通し近隣の協力は得ている。また、備蓄については法人全体で準備している。また、介護棟4階にも保管している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分、食事量はチェック表があり、職員は大体の摂取量を把握している。糖尿病の利用者へのケアもできており 管理栄養士を交えての工夫も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には毎年異なるタペストリを利用者と共に作り飾っている。台所はアイランド式のキッチンを囲んで作っている。おやつや調理の匂いが漂い家庭に近い雰囲気がある。また、和室には利用者が昔、着ていた着物をさげたり浴衣を下げて思い出作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋にはその人らしい表彰状がかけられ、好みの家具や体調に合わせたベッドの配置がされている。危険防止の工夫もしてあり個性を活かした部屋作りとなっている。入り口の暖簾は利用者の好みや色、柄を考え家庭で作られたものが各室に下げられている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームつかがわ
(ユニット名)	藍、萌
所在地 (県・市町村名)	大分市東春日町5-25
記入者名 (管理者)	小倉 礼子
記入日	平成 20年 7月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	昨年度までは「地域」についての理念が不足していたので、全員で話し合い、地域密着の意義が伝わる内容に改善する。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	中学生、サマーボランティアのオリエンテーション時に、若い世代に認知症介護についての説明を行っているが、今以上に若い世代へ伝えてゆきたい。
方			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	前の公園で子供たちが遊んでいる時に、一緒になって遊んでいるが、気軽にホーム内には入ってきてないので今後はホーム内をオープンできる努力をしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	保育園との1ヶ月に1回の交流は大変好評である。今は小学校へプレゼントする目標で、皆で雑巾縫いをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレット、現場見学をして頂き、利用者・家族に納得ゆくまで話し合いを行う努力をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が自由に意見を言えるような雰囲気作りを常日頃から行っている。個別の担当者は利用者の状態を把握し、意見を聴き介護計画にも反映している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、電話、新聞、アルバム等を通じて日常生活の様子をお知らせしている。お小遣い帳については月1回ほど目を通して頂き、確認印を頂いている。身体に異常があった場合は事前、事後報告を行って家族と情報を共有するようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、ご意見箱は誰もが入れやすいよう玄関先に設置している。家族とのコミュニケーションは常日頃が密に行う努力を行い、年1回のアンケート調査を行い改善の方向に努力している。苦情があった場合、部長、管理者が話し合い、解決する努力をしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は月1回の会議の時に申し出ると共に、日頃から自由に意見が言えるような雰囲気になっている。上司への相談も多くある。	○	夜勤明けの報告は現場及び、部長にも行っている。その時に個人の意見や工夫、仕事への意識向上につなげているので今後も続けていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の変更は、その都度柔軟な対応を行っている。職員もその状況を理解し、対応出来ている。緊急時の場合勤務延長、利用者が不穏になった時は休み時間、退社時間でも柔軟な対応をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常日頃から介護職(48名)全員がどの部署にでも対応出来るよう、声掛け、訪問してコミュニケーションを図っているが、異動は最小限度に行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	今年度も他グループホームとの交流、交換実習を実施をしたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・現在何に不安であるかを聴いて、その不安への解消方法としてまず、在宅生活を基本としたプランを考える。 ・その後当法人のサービスを提供したり又、他事業所のサービスを紹介する。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームを利用する前に、当法人の認知症デイサービス、小規模多機能を利用しながら、つかがわに慣れて頂きたいよ在宅生活が不可能になった場合、グループホームに入所となるケースが多いので環境の変化を最小限に抑える事が出来る。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	おやつ作り、昔の話、生活の知恵等を教わり、教わった事に感謝する気持ちを心から伝え、本人がまだ存在感・役割のある日々が送れるような関わりに務めている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・入所時に、職員だけでは支えられない事を理解して頂き、必要な時に気持ちよく協力して頂いているので利用者は安心して生活されている。 ・御家族には利用者が良い変化があった時、電話をして共に喜んでる。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時に本人の生き方、家族との関係等を出来るだけたくさん情報を頂けるよう働きかけている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	・家族の中で情報を得て、昔からの友達の面会を依頼をする時もある。 ・行きつけの場所、生まれた場所等のドライブや散歩をする。このような支援をして思い出の場所を断ち切らないよう支援している。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	友達が出来たら、日常生活において何かと関わりが持てるよう意識したケアをする。又気が合わない人に対してはお互いにストレスがたまらないよう、自然体の関係が保てるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死亡退所、他事業所移行のため退所等、理由は異なるが退所後も電話したり、又家族の方がお茶飲みに来られたりと良い関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプランの方法はセンター方式を取り入れているので、本人の思い楽しみ、生きる意欲等を中心としたケアを行うよう努力している。 例→起床時間、就寝時間は本人の思いで動いている。 ・洋服選び、お茶の種類等も自主性を大事にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・(33)同様の思いで、生き方を大事にしている。より細かいフェイスシートを作成して全員で情報を共有している。 ・家族には面会の都度いろいろな話を聞かせて頂いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所時、退所時変化のあった時は、夜間・日中の状態の観察記録をつけてケアプランの作成に活用している。 例→薬の変更、レベル低下時周辺症状の激しい時等。 ・家族には必ず報告し情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れている。家族よりの思い、本人の思い、職員の思いを大事にしたプランである。家族が記入する項目があるので依頼している。 ・B-1~4(センター方式資料)→本人の生い立ち、呼び名、職業等を記入して頂く。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・現状のプラン中に変更があった場合は、担当者、家族、ケアマネとカンファレンスを行いプランを立て直しより良いものにもっていくよう努力している。 ・1ヶ月毎に評価を行い、3ヶ月毎に立て直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の日誌、ケース記録、ケアプランのチェック表、行事報告書等に個人個人の状態を記録し、次のケアプランに生かしている。全てにおいて職員一人一人が把握し、共有する努力をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・5つの事業所の特色があるので、グループホームのみならず、その時の状況に合わせて交流を図り、社会的に広がりをもてるような支援をしている。 ・交流会、ボランティア、ホール等の場所借り		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアは踊り、歌、保育園児と定期的に来院して頂き、利用者の方々の良い刺激となっている。 ・運営推進委員会議上又、その他に民生委員、地域の方からの情報の相談があり、ケアに生かすことが出来ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人全体の考えは、いつもケアマネジャーとの連絡、地域の方々との連携は密に取る方針である。常に利用者の方を中心に何がベストであるかを相談して支援出来るよう努力している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括職員が毎回参加して頂き、現状の報告や包括からの指導を受けながらかがわ全体の介護力がレベルアップ出来るよう努力している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の思いを大切にしているので、他病院かかりつけであれば、継続して頂いている。 ・健康維持のため、2週間に1度の定期検診は当病院で行っている。通院については入居時に家族に了承を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	(47)同様である。	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法の勉強会を定期的に行い、周知徹底するように努力している。 ・記録物の保管場所にも注意している。実習生の実習内容については細心の注意を払う。(例、トイレ誘導、入浴等)。見学者への説明時は、むやみに部屋を覗かないよう注意している。 	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・手芸をする時の色、型を本人から事前に希望をとる。 ・おやつ時の飲み物の希望。 ・外出、散歩への希望。 等、様々な生活場面で本人の意思決定を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的行事、月行事の大まかな日程は用意しているが、その日の流れ、利用者の気分により予定変更を行う。利用者主体とした考えでケアをするよう職員全体で努めている。 	○ 全員がホールで何かを行うのではなく、1人1人の自由を優先し、部屋から出てこられないときは職員が来室しお茶を運んだりして話しをするようにして、自由時間を楽しむようにしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・洋服を買う時は家族に依頼したり、本人と一緒に買い物に行き選んで頂く。 ・理、美容院は本人行きつけの店に行き、昔ながらの話をしている。店主にも協力して頂いている。 ・入浴前は本人の着たい洋服を前日に選んでいる。 	○ マニキュア、化粧等をいつもして、口に出して(きれい)、(似合っていますね)と声掛けをし、気分の良い雰囲気作りをしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ作り、パイキング、季節の食事作りをふんだんに計画し実施している。利用者、職員協同型の食事作りである。 ・常日頃の食事準備、片付けも常に感謝の言葉を添えている。 	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み物は自分の好きな飲み物を選んでいる。 ・嗜好に合わせた外食、個別ケアの計画で外食に行く。買い物に行ったり、地域に溶け込んだ楽しみを実施している。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表をつけ、個人の排泄時間に合わせた誘導を行う。 ・自然排便を基本としているので、オムツは使用せずトイレでの排泄、パンツ使用を基本とする。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間はほぼ決めているが、本人が入浴したい時間に入っている。1度誘って拒否すると、職員は時間を置いて誘うようにしている。プリコラーージュ方式の入浴で、1対1の個別入浴である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・静と動の生活リズムを守り、それぞれの体調及び生活リズムを把握し対応している。 ・和室、ソファで休む方、浮腫のある方は、足浴と軽度の運動を取り入れ安眠につなげている。	○	入居時、眠剤を服用していた方も今では使用していない。服用者は18人中1人。この1人の方も随時までとなる。薬は使用しない方針です。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・今まで生きた人生の役割を生かしたケアを行っている。洗濯たみ、料理、片付け等も自分の仕事と思っている。歌やレクも自分の得意技を役割としている。自らが率先して行動するような声掛けを行い、生活に張りを持って頂く。	○	自ら進んで家事を申し出る方が多い。又、最近ではプレイケア委員会が音楽発表会に向けて練習しているので、そのメンバーに入っている方は役割として練習に参加している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者によっては小額を個人で持たれて、買い物時自分で支払いをする。 ・買い物を通じて社会参加をして頂きたいので、職員が小遣いを管理している方でも支払う時は、職員が見守る中自分で行うようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・1日1回は必ず外に出て気分転換をしている。行く先はいくつかのコースで自己決定している。 ・春日神社、竹町、海、前の公園と環境には恵まれている。 ・雨の日はホーム内の他事業所に遊びに行き交流している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族から結婚式、法事に連れて行きたいと相談があり、行くまでの衣類、当日の行動について安心出来るようアドバイスする。 ・2~3人の利用者と寿司屋やジョイフルに外出に行く時、仲間意識が強くなる。	○	外食や理、美容院に行くときは、相手先の店主に事前に挨拶に行き、理解、協力をして頂く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族に電話、家族との文通を日常生活の中で行っている。家族とのつながりがいつまでもあることで、離れている生活も安心出来るよう支援している。要望のない方や出来ない方は職員が知らせる事もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会者はゆっくりと楽しい時を過ごして頂くよう別室を設ける。日頃のアルバムを見せる。 ・職員が状態報告等によって、訪問時には楽しく過ごして頂く。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束禁止法の勉強会を行い、具体的に正しい理解を得るよう努力している。 ・車椅子に移行する場合もぎりぎりまで歩行し、よく話し合いの結果で決め、家族に報告し車イス生活になる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中いつでも出入りが出来るよう、鍵を掛けないように努力している。いつも出ようとする方が居るときはドアに鈴をつける工夫をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・利用者の目の届くところには必ず1人が居るようにしている。 ・夜間も1～2時間置きの見守りをし、転倒の危険性のある人にはその人にあつた工夫をして安全確保をしている。(鈴をのれんにつける。靴のマジックテープの音で部屋に行く。)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・洗剤、包丁等は利用者の手が届かない場所に保管しているが、全ての物をしまう事はしていない。ハサミ、針、日常生活の道具については、利用者1人1人の危険状態を把握し見守っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリハット委員会を設け月1回会議をし、安全確保についての勉強会をしている。マニュアルも作っている。 ・ヒヤリハットは毎日記入。 ・インシデント→検証→現場へフィールドバックし改善する。 ・法人全体で質の向上へ努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人の水分、食事量はチェック表をつけている。 ・食事量が減少した場合は、本人の好物、外食等を考え、又食事の形態の変更、栄養剤も取り入れ、少しでも楽しく摂取出来るよう栄養士を交えて工夫する。 	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症委員は病院の会議、市、保険所からの勉強会に参加し、職員に報告している。マニュアルも作成している。 ・共有部分は毎日オスパンで消毒する習慣をつけている。 ・外部からの感染を防ぐため、車イスの車輪は外出のたびに拭きあげる。 	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイター消毒、日光消毒、熱消毒を毎日、週1と定期的に行い記録している。 ・特に冷蔵庫の中は定期的に整理し、賞味期限に注意を払っている。 	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関先にはパンフレットを置き、中の様子が分かるようにしている。 ・季節感を感じて頂くような雰囲気作りをしている。 ・安全に靴が履けるようベンチを置いている。 ・等で親しみやすい雰囲気作りに努力している。 	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・昔なじみの道具や電話を飾り、利用者との会話が盛り上がる。 ・布を利用して、利用者と共に季節の作品作りをして飾っている。 ・いつも利用者と考え「ぬくもり」ある雰囲気作りになるよう努力している。 	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・和室、居室「ソファ」、サンルームと、それぞれが落ち着ける場所がある。自分の定位置、隣は誰が座る等はほぼ固定しているので、その時の時間、空間は大事に見守るようにしている。 	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

◎グループホームつかがわは自然、街中、生活密度の濃い地域と、恵まれた環境の中「介護」「医療」の連携がとれ、安心できるグループホームである。

①地域との交流を大切にしている。

- ・役割としてクローバー公園の清掃、ゴミ拾い、自然な姿で子供達と交流する(公園の中で)
- ・保育園児との交流の中で雑巾作りを引き受ける。
- ・地域のお祭り参加、神社の祭り参加。
- ・毎日の散歩等で社会に役立つ人、社会の一員である生活を支援している。

②一人一人の思いを大事にした介護計画を立てサービスを提供している。

- ・センター方式のプランを学び、本人の思い家族の思いは何であるかをいつも考え、「楽しい」「ぬくもり」あるグループホームを目指している。